

令和4年度 第2回みき歴史資料館協議会議事録

1 開会日程

- (1) 開会 令和5年3月15日(水) 午前10時
- (2) 閉会 令和5年3月15日(水) 午前11時30分

2 場所 みき歴史資料館 3階会議室

3 議題

- (1) 報告事項
 - ア 令和4年度下半期実施事業報告・利用者実績報告
- (2) 協議事項
 - ア 令和5年度事業計画予定(案)について
 - イ その他

4 出席者

- (1) 委員 木村修二、安田信吉、神木徹、大塚康生、松下君子、真野朱美
- (2) 事務局 本岡教育総務部長、金井文化・スポーツ課長、富田館長、金松係長

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴人の数 0人

1 開会 木村会長あいさつ

2 報告事項

- (1) 令和4年度下半期実施事業報告・利用者実績(資料1・2・3)

(事務局から報告)

[委員]

大塚にある大日本標準時の石柱よりも西側の場所に時計台が新しく設置されたが、両者の位置付けはどういったものなのか。

[委員]

大塚にある大日本標準時の石柱は日本測地系に基づいた子午線標示であり、時計台は平成14（2002）年に導入された世界測地系に基づいており、400m程離れているのはそのためである。いずれの測地成果も正しいものであるが、世界標準に合わせると新しくできた建物の場所になる。

[委員]

来年度に向けての課題に建物施設の老朽化対策の1つとして変圧器PCB処分があったが、今はどのような状況になっているのか。

[事務局]

昨年度に調査の結果、低濃度のPCBが変圧器に使われていることがわかった。PCBは2027年3月末までの処分が法で定められており、PCB不使用の変圧器に替えなければならないが、PCBの処分代だけでも70～80万円で、更に変圧器の更新もあることから、別途予算を組む必要がある。

[部長]

行政としては高濃度PCBの処分は完了しているが、市施設で現在使用している機器に使われている低濃度PCBについては、一斉に処分することを考えており、調整が必要な案件である。

[委員]

県が公募したスマートシティモデル地区に三木市が選定されたことから、本年2月1日に日本オラクル株式会社と包括連携協定を締結し、地域の課題解決や観光都市三木市を目指してVR（仮想現実）を活用したインバウンド誘致を計画しているようだ。兵庫県では、JR6社や旅行会社が一体となって行う大型観光キャンペーンである3か年の兵庫ゲストイネーションキャンペーンが今年から始まり、2年後の2025年には大阪・関西万博の開催と既にスケジュールは決まっている。

また、三木市では、昨年に湯の山街道周辺地区が県の条例に基づく景観形成地区に指定され、中央公民館やみのがわ会館の場所に複合施設の建設を予定していることから、この3年間で日本オラクル株式会社の力を借りながら、施策を打ち出していかなければ、三木市は埋没していくだけになるのではないかと。景観事業について兵庫県下で一番遅れているのが三木市であり、これからの3年間で

三木市に誘客できるような施策を進めていくことが重要だと思っており、皆さんと協力していきながら進めていきたいと考えている。複合施設と日本オラル株式会社との連携であれば、景観事業として国の補助金も活用しながら行っていかなければ、三木の歴史・文化が重要だとしてもなかなか上手くいかないのではないかと。

湯の山街道沿いなどにある古民家のさらなる活用や、将来的には神戸空港も国際化されることから、そちらと結びつく形で三木市の歴史・文化を活かしたまちづくりを今から取り組まなければいけないのではないかと。

[委員]

みき歴史資料館のコンセプトは、時空（とき）の拠点、まちおこしの拠点、情報発信の拠点であると聞いている。江戸時代以降は三木町という一つの都市として発展してきた歴史があり、江戸時代以降でも400年という長い歴史を背景にしているが、建物などが失われているのが現状である。資料館でもスタンプラリー等のイベントを開催したようだが、歴史ウォークについて昨年度も同じコースで実施したとのことなので、新しいコース設定などコンテンツ面から資料館としてのスキルのバリエーションを増やしていくことも観光分野に注力していく上で努力していく必要があるのではないかとと思う。

[課長]

令和5年度事業として、今年度より実施している三木城本丸跡・二の丸跡の発掘調査について、今年度は二の丸跡にあった旧上の丸庁舎跡の発掘調査を行ったが、来年度は本丸跡の旧上の丸保育所の調査を予定している。また、旧上の丸庁舎跡に残存する基礎については、景観を損ねているとの指摘もあることから撤去を考えており、撤去後は広場としての暫定利用を考えている。さらに、老朽化した釜城館等二の丸跡に残る建物の撤去を予定しており、現在は予算要求している段階である。

[委員]

古い建物が失われているなかで、倉庫のような建物であっても建築学的に貴重かどうか、また、どういった意義があるのかについて調査も行うのか。

[事務局]

旧上の丸庁舎は記録保存というかたちで調査し、明石高専の先生に執筆いただき『旧三木高等女学校校舎建物調査報告書』を発行している。

[委員]

歴史を活かしたまちづくりといった観点もあり、三木城本丸跡・二の丸跡の発掘調査について、どのようなスケジュールを予定されているのか聞きたい。

[事務局]

発掘調査については、令和4年度より発掘調査を開始しており、令和7年度までの4か年を計画している。令和4～6年度にかけて本丸跡及び二の丸跡の発掘調査を行い、令和7年度に調査報告書の刊行を予定している。発掘調査以降については史跡整備を進めていきたいが、まだ決まっていない。

[部長]

発掘調査以降の整備については、基本的に建造物の設置は難しいため、公園として整備した上で案内板を設置、もしくは、AR（拡張現実）やVR（仮想現実）といった技術の活用も考えられるが、具体的な整備案については令和8年度以降になる。また、復元的整備について県に問い合わせたところ、写真や図面もなく、史実に基づかないような建造物の設置は難しいとの回答であった。

[委員]

史実に基づかない建造物を設置することは、観光の側面があることは理解できるが、偽史を人々のイメージに植え付けてしまうことになり、慎重に考える必要がある。

[委員]

安福田地区にも竹中半兵衛の墓があるが、この度、秀吉本陣跡から安福田地区へ通じる山道を整備したことから、志染歴史倶楽部が中心となって4月4日にウォーキングイベントを開催する予定である。山道のルートについては議論もあるだろうが、歴史資料館が主催する歴史ウォークにこのルートを加えたコースで開催いただければと思う。

2 協議事項

(1) 令和5年度事業計画予定（案）について（資料4）

(事務局から説明)

[委員]

「細川町の祭り屋台展」に展示する資料の中には、祭りで実際に使用されているものがあるのか。

[事務局]

展示スペースの問題もあるが、先代の屋台用具に加え、現在使われている屋台用具の中で借用いただける資料の展示も考えており、準備しているところである。

[委員]

「地域の史料たち7 (仮)」の展示については全く決まっていないが、これまでと同様に古文書や絵図等の展示が中心になると考えられることから、違いをどうやって出していくか考えているところである。「三木の染形紙 (仮)」についても、昨年度の企画展との違いをどうやって見せるのか工夫していく必要があるのではないか。また、歴史ウォークでは「別所ゆめ街道コース」が新たなコースとして開催されるようだが、様々なバリエーションやコンテンツを用意しておき、組み合わせを変えながら開催するのが良いと思う。新しいコースの設定は大変だろうが、展示も含めリピーターを意識したイベントの開催を検討いただければと思う。

(2) その他

4 閉 会 大塚副会長あいさつ